（一）第九十二號（日曜日）明治四十二年四月二十五日　日曜日及祭日の翌日休刊（日刊）（明治四十二年三月三十日第三種郵便物認可）

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

東拓人物評論（十二）

▲吉原副總裁▼（五）　鐵山

我こそはと自ら任じ自ら許せし幾多の候補者を押し除けて其の場の役割は乃ち定まつたりと躍り出でたる氏の面魂を見しときは余輩と雖も之が人選の番狂せに一驚を喫せざるを得ざりき要するに人間の德なるものは何時如何なる邊に發現さるゝやも知るべからざるものなり。

東拓副總裁としての新なる地位、換言すれば氏が生涯中に於ける此の新なる境遇は、將して將來に於ける氏の運命をして從來よりもより以上に多幸ならしむる乎、果た不遇ならしむる乎、之れ固より余輩の今に於て豫言する能はざる所なれども、もし強ひて言はしむれば余輩は不幸にして後者に首を傾けざるを得ず、切言すれば淡々たる氏が從來の閲歷の上に一大汚點を印せざるなきかを疑はざるを得ず。

由來人の手足となり爪牙となりて機械的に働くは別に難しとする所にあらざるも人を驅使し統御して能く其の當を得、敢て過ちなきを期するは容易の業に非ざるなり況んや新なる職務に任じ、重大なる責任を負ひて而も新なる一功業を舉げ盛名を博せん事は非常異凡の難事といはざるべからず蓋し宏濶の度量あり、英邁の膽器あり、俊傑の手腕ある人物にして始めて人を統御し、事に當るを得べし一時の好奇心に驅られ虛榮心に浮かされて其の職に任ずるが如き輕薄男兒の爲し得る所ならんや、而して氏が此の新にして而も重大なる東拓副總裁としての地位と職責とは如上の所謂氏が將來不遇の境遇に足を投ずる門出なりとせば言ふ迄もなく氏は東拓副總裁としての手腕を有せざるの人たると同時に其の器に非ざるものといはざるべからず、蓋し氏が人物たるや圓轉滑脫なる割には餘りに規矩繩準に偏し、而已ならず威烈乏しく權威輕く人をして一見與し易き感を抱かしむるもの之れ確に人を統御し驅使するの材に非ざるなり、若し夫れ其の手腕と力量とに至つては茲に繰り返す迄もなく例に依つて例の如く到底平々凡々たるを免れざるべし然れども四邊の刺戟と自己の抑制とになりて外其の職に勵み其職の天性を努めなば又自ら其の地位に恰當するを得べけんもさあらざるに於ては必ず世人より少なからざる不評判と不信望とを蒙るは到底免る能はざる所なり、重ねて言ふ氏や如今將して如上の心もて其の職に任し居るや否や（此稿終り）

日韓の經濟的干繫（二）

之を要するに韓國との政治上の干繫は現狀に於て猶は滿足す可からざる點なきにあらざる可しと雖、余輩の更に必要を感ずるは經濟上の干繫をして今一層密接せしめんと是なり、而して之が爲めには余輩の數々主張せる如く先づ日韓間の關税を撤廢し、日本の關税法を韓國にも適用するを最急務と爲す或は曰はん日韓間の關税を撤去せば韓國の歳入に大減少を來し其補塡の途を如何にするかと、然れども是れ韓國歳入の大部分は日本國民の負擔するものなることを想はざるの結果のみ既に此關税同盟に依りて我が國民廉價の食物を需要するを得、韓國民は日要品の低價產業の隆興を致すを得ば新に韓國の政費を國庫より補給するも國家に取り決して損失なきにあらずや、若し夫れ韓國の米穀が自由に我が邦に輸入せらるゝは我が農業を壓迫し我が農民を窮迫するものなりと言ふ論の如きは農民懷柔の爲めにする議員の陳套語にして斷の兩面を見ざるの謬論、農民を保護せんとして却て之を窮地に陷れ所謂贔負の引き倒しなるは敢て余輩の多辨を俟たざるべし（未完東京經濟雜誌）



佐倉宗吾（六十三）

眞龍齋貞水講演

雅樂頭御屋敷へ御預りになりますと、六人の庄屋は、腰繩を打たれて引立てられましたが、直ぐに駕籠訴に及びたる者共、十分手當を取らせよと仰つしやつた、名主は何しろ、腰繩を打たれまして、八ツ頃迄其儘おかれましたから、大變に疲れて仕舞ました、銀町の伊勢屋半兵衞方を出る時分には、お茶附を少々食べた位、なか／＼御飯なんて食べられやしませぬ、死を決して御駕籠訴を致さうと云ふのでございますから、併し何んな事が無いとも限りませぬから、少々づゝは食べて出掛けましたが、願書は御採上になつたんで、少しは氣が落付いて、御腹の減つた所へ手當、御屋敷では、疲れて居ると見ましたから、米から煮た粥を下すつた、六人は有難く頂戴いたすと、御役人が　役「コレ、大分其方共、臂の邊など擦り剝いて居るやうである、唯今御醫者を以て、膏藥を取らするに依つて、手當を致せ　○「エー、恐れ入りました事でございます、此位な事は何とも思ひや致しませぬ、稍々あつて六人とも、御庭前へ引立てられる、席の上へ座つて、兩手を突き頭を地べたにくつ附けて居りますと、シーッて聲が掛つた、恐る／＼上眼を使つて見上げると、酒井雅樂頭忠淸公、其處へ御出御に相成り、御緣端に御着座あらせられました傍には御家老河原三左衞門と謂ふ御家老が從いて居つて　三「斯りや六名の名主、面を上げい」「へエーッ」と恐る／＼面を上げる　雅「其方共、下總の國印幡郡佐倉の城主堀田上野介正澄領分庄屋共なるか　○「恐れ入り奉ります」　雅「此願書の趣十一個條に就いては、誠に不憫なる次第であるに依つて、予が此度採上げ、上野介に對し、確と意見に及ぶであらう、併しながら此内の三個條は、憚りあるに依つて、此三個條を删り、八個條を以て申し立てよ、左すれば此八個條の儀は、予が取計ひ遣はし、其方共一命を全ふ致させ、領分の百姓共一同、安堵いたすやう、上野介に沙汰いたすであらう、何分此三個條に至りては、なか／＼以て穩かならぬ儀なれば、左樣いたすが宜しからん、如何ぢや　宗「ヘエー、有難き御仰せに對し御言葉を反し奉るは、誠に恐れ多き事には候へども、其三個條を删り、御願ひ申す位なれば、斯く恐れ多き御大老樣にまで、御駕籠訴には及び申しませぬ、其三個條こそ御願ひ申す中の最も大切なる個條、何卒御情けを以ちまして、右の三個條をも御加へ下され、全部御採上げ下し置かれましたならば、吾々共に於ては、如何なる重き御處刑を蒙りましても、只管有難く存じ奉るでございませう、此三個條の御願ひ[illegible]は、吾々が一同の百姓に誓ひを立てた其言葉も反古に相成るのみならず、以て百姓の行立たざる所にございますれば、偏に十一個條とも、御採上げの程を願ひ奉ります」と、恐る／＼顏を上げまして、御大老樣の御顏を見上げたる時に、忠淸公その顏を御覽になると、兩眼血走り、滿面蒼白に、鬢髮逆立ちたる有樣は、眞に[illegible]て、有繫の忠淸公も　忠「左樣あるか、其方は何と申す　惣「私は木内惣五郎と申します　忠「さて／＼其方は天晴な者ぢや、腹中に其程の事を思ふと雖も、上役人の前へ出ては、斯く明白には申し述べ難きものなるが、唯今の其方の陳辨、其の心底も推し測られ、實に見上げし者である、嗚呼もし其方が武士道に在らば、一廉役に立つべきもの、然らば此十一個條とも、殘らず予が取計ひ得さするぞ　惣「ヘエー、有難き仕合に存じます　忠「上野介は、先代加賀守とは異ひ、唯今は御側御用御取次ぎと謂ふ御役にて而かも其筆頭を勤め居れば、誠に御用も多く、國表への交代も是なきに依つて、國の政治の屆かざる點は、能く知るまいが、予が身に引受けて、宜しきやう取計らうであらう　惣「ヘエー　忠「其方共六名の身の上も安全に、又一同待ち居る國表の百姓共にも安堵の思ひを致さすやう、屹く忠淸が取計らうであらう　惣「ヘエー、有難き仕合に存じ奉ります」と、六人は眉間を大地に摩り附け、[illegible]御情けの御言葉に、ワッと[illegible]ました。



京城新報

花見の季節

花に醉ひ花に狂ふは大和民族の特色なり、花は實に大和民族の生命なり、見よ賤が伏屋に住む荒男も、金殿玉樓に偃仰する姫御前も春の花には徐ろに陽氣を催し、胡蝶の花に戲る如く、花の前には平生の寂寞も悲觀も行路難も忘れて其心自ら浮き立つに非ずや、春の花は一年中の苦痛を洗滌する爲め平等に上帝の下し賜へる慰籍なり、王者も貴族も平民も花の前には一機にして其間何等の區劃なし、花は實に平等なる人生の慰籍者なり、殊に日本人は花によりて活き花によりて優雅の心を養ふ、日本人に卓絕せる優美の思想あるは花の感化に負ふ所多し、古來詩に歌に俳句に於て花に感じて其想を叙べたるものを見るも、吾儕日本人が如何に花を愛し、花に感ずるかを知るべき也、セツキスピヤが流るゝ小川にも法の敎ありと云ふが如く、花も亦一の宗敎なり日本人に取りては特に力ある無言の宗敎なり余の大祖父に當る人の狂歌也とて余の家に傳はるものあり、「生涯の望はてゝに樽枕花の錦を釣り夜着にして」素より名吟に非ざるも、能く日本人の花に對する感想を言い露はしたるものならむ、而も優雅にして其樂觀的なる處は花の宗敎に感化せられたる原意なり、日本人の花を愛するの情は殆ど先天的の趣あり、異鄕に在るものも一度花の季節となれば、直に故鄕の春色今如何と遙に故國の花に憧かるる也、然るに今や時代は變遷して殖民の時代となり、悠々として故國の花を眺むるを許さず、有爲の人は奮て殖民地の經營に從事せざる可らず、玆に於て花なき處には花と共に移住するを可となす、殖民地經營をなすものは先づ其生命たり慰籍たる花樹の栽培を念頭に忘るゝ勿れ、斯くして花と共にありて慰籍を得ば懷鄕の念も自然淡なるに至るべし、韓半島にも春は將さに來れり、桃李の花は競ふて咲揃ひたり、櫻花は鮮なけれども今將さに爛熳たり、半島の春色は日本とは多少趣きを異にするも亦一種の趣味あり、平生の寂寞、煩累、苦痛を慰するに足る、此最好季節に於て總ての事を休戰し花の慰籍を受け、優雅の思想を養ひ以て生活を新にするを要す、人は麵包のみにて生るものにあらずとの聖者の言は眞なる哉、心の修養は人生の要義なり、爛熳たる花を見て會心の友と相語る、美感快感は以て平生の苦痛を忘れ眞に生命の延びたる如き感を生す既に之を感ず、慥に心の命は延びたるなり今や將さに天の與ふる花を賞翫する時に逢ふし、之れ精力を增し奮鬪力を養ふ所以也、宜しく胡蝶の如くに無心にして花に醉ふべし、余輩は頃者佛國領事館內に櫻花の爛熳たるを見て徐ろに感を起せり、櫻花は日本人にす日本人の勇氣を增す、櫻花の繁殖は將さに日本人の繁殖を意味するに非ざる乎、由來韓半島には櫻樹少し、余輩は在住邦人の增加と共に櫻樹を移植するの必要を感ず、今や花の季節に於て殊更に此感深からざるを得ず、花の好季節、無邪氣の行樂は人心を健全にす、余輩は世人に向て花の慰籍の下に清き行樂を望むものなり、

東京電報

▲日糖事件檢擧と準備　日糖事件にて檢擧されたる二十二名は昨日早朝より徹夜取調たる第二回檢擧の準備ならん

▲代議士五名の拘引　其の後拘引されし代議士は佐々木正厖、藤金作、磯野善次郎、神崎東藏、大津淳一郎の五名なり

▲殿下秦皇島着　伏見宮殿下昨日午後一時秦皇島に御着あらせらる

▲汽船の衝突　二十二日新潟沖にて第三能登丸と神通丸と衝突し神通丸は沈没十六名溺死す(以上廿四日發)

外報一束

●比律賓放棄說　米國ミゾリー州選出下院議員ストーオン氏は一演說に於て比律賓島は八乃至五年以内に拋棄せざるべからずと主張して世人を驚かせり氏曰く該島は米國移民には毫も利益なきのみならず寧ろ國家の財力を枯渇し國家を弱むる甚たり何となれば米國の地位は他國の該島攻擊に對する何等保護の途を見出し得ざればなり

●日本勞働者評　米國オーガストギルハウス氏は曩に勞働者に推されて大統領の候補者たりしが日本人を排斥せる勞働者の組合を攻擊して曰く米國に於ける排日運動は勞働者が大統領の選擧に投票を得んが爲に煽動したるものなり予は日本人は勞働者の模範にして米國勞働者の狀態を改善するに與つて力あるものなるを信ず云々

●米國人の邪推　或る一部の米人間には日本が西澤島を占領するは他日米領呂宋島を攻擊する軍事根據地となすが爲なりと邪推するものあり又目下紐育ヘラルドに關係を有し米國にて敎育せられし廣東人某は北京日報と同英字新聞にて連日盛んに我を攻擊しつゝあり

●土國皇位繼承　土耳其軍隊は回々敎大僧正に對し僞誓者を回敎主(即ち皇帝)となさゞることを宣言せんことを要求せり而して皇帝の讓位若くは退位の場合には皇弟レハードエフエンヂー親王皇位繼承者となる可し

●勃國獨立ご列國　勃牙利、土耳其兩國間の議定書は露、英、佛三國の代表者立其より獨立王國として是認せられんが爲也

●露艦隊の通峽　露國政府は黑海艦隊に關する警備艦をしてダーダネルス海峽を通過せしめたり然れども右は同海峽開放問題に關する商議を强て期待する者にあらず

雜報

●改革に付建言　東拓　曾て辭表まで呈出して漢城銀行總務と東拓理事の兼務を許されたる韓相龍氏は今回宇佐川總裁に向て東拓內部の改革の件に就き十三箇條の建言をなしたりと云ふ宇佐川總裁が之を容るゝや否やは數日間の中に判明すべしとの事なり

●副統監の旅程　二十三日元山より統監府に達したる電報に依れば副統監の旅程は左の如くなりと云ふ　二十四日午後元山發、二十五日午後慶陵着、同日同地出發、二十六日迎日着、同日慶州泊、二十六日同泊、二十八日午後迎日出帆、二十九日朝釜山着、三十日滯在、一日午前六時出帆

●地租徵收成績　度支部當局者の語る所に依れば本年度の地稅徵收は非常の好成績にして昨年度は暴徒の跋扈等にて思はしき結果を得ざりしも本年度は既に豫算以上に達したりと云ふ

●暴徒鎭壓會議　昨二十四日午前十時より軍司令部に於て明石憲兵隊長、松井警務局長、若松警視總監及び駐韓旅團長以上は暴徒鎭定に關して會議する所ありたり

●韓皇の種痘善感　韓皇には曩きに高階大韓醫院長の手に依り種痘を行はせらるることは既報の如くなるが今其後の經過を聞くに韓皇には幼少の頃天然痘に罹られたることあるが過般行はせられたる五點の種痘の內三點は善感せりと倘千代宮も同時に五點の種痘を受けしが其の內三點は善感したりと

●理事官の交迭發表　既報せし如く若松元山理事官は平壤に久水大邱理事官は元山に菊池平壤理事官は商工局に轉せしが大邱理事官の後任は未定也と

●地方諸規程の發布　地方費法發布と同時に之れが實施に必要なる地方費會計規則、地方財產管理規則及地方吏員設置規定の諸案は目下法令審査委員會に於て審査中なるは既報の如くなるが愈々不日閣議を經て發布の運びに至るべしと倘本年八月迄に內部に提出すべき本年度の地方費豫算は此程來各地方官廳より續々提出しつゝありといふ

●不作地と社還米　京畿道始興、陽川、長端、交河、坡州、金浦、通津、富平、安山の九郡は昨年の旱魃及水害の如くなるが度支部は內部と協議の上窮民と認む可き三千四百餘に對し社還條例に依り社倉に價格一万圓の社還米を補助し社倉より更らに窮民に之を貸與すべしといふ

●漁獲物關稅交涉　庵原農商工部水產局長は漁獲物に關する關稅の件に就て昨二十四日午前十一時關稅局を訪ひ稅率課稅の方法其他に就て交涉する處ありたり

●文川郡の義捐金高　咸南文川郡の饑饉地へ義捐したる金高は一萬七千餘圓なりと

●水產技手に訓示　今回新に釜山、鎭南浦、城津、淸津新、義州の各理事廳に派遣せらるゝ水產技手五名を一昨日(二十二日)より農商工部水產局に召集し庵原局長より懇々其執務上に關する心得を訓示し本日之を終る筈なりと

●日韓親善の訓示　趙黃海道觀察使は過般道內を巡視して日韓の關係產業の獎勵、斷髮の勵行等の訓示を與へたるがその結果地方人民に非常の感動を與へたるものゝ如しと

●平南官民ご平元線　韓國横貫鐵道は財政の都合上未だ着手する能はずとは今期の議會に於て政府委員の明言したる所なるが政府の意向は平元線に重きを措くが如き傾向あるにより平壤及び鎭南浦の官民は這は畢竟平元線の調査不完全にして當局者を首肯せしむべきもののなきを以て自然京元線に重きを置くものとなし爾來は官民一致して之が調査に努むる由なり

●請願書脫稿ご調印　仁川築港期成實行委員會にて過日加來顯原稻田の三名を幹事に選出し而して右三幹事及び相談役今井米藏の兩氏は請願書を作製中なることは既報の如くなるが右は全部脫稿し昨日印刷を終はりたる由なれば本日より各町世話人は居留民全部の調印を取る筈なりといふ

●洛東江昨今の狀況　昨今洛東江は漁業の利多く其漁獲せらるゝものは鯉、鮒、鰻等にして鰻は釜山方面に其他は倘州に輸送す又兎津及洛東地方の舟主は貨物を買込み一度降雨あらば出帆の見込を以て準備に汲々たりと

●滿韓の官烟賣行數　官烟の滿韓に於ける昨年度賣行高に支那本部一億六千七百万本滿州廿三億三千八百萬本韓國は四億五千六百萬本なりしと

●京中の入學志願者　京城中學校の入學志願者數を聞くに一年百十四名(內八十三名は京城)二年六十二名(四十八名は京城)なりと

●鑛業所大擴張　平壤鑛業所擴張に關することは過日の紙上に於て既に報するところありしが尙其の詳細なる事情を聞くに既報十五萬圓の資金は之れが大擴張の準備金たるに過ぎざるものにてダイヤモンド附の鑿岩錐を使用して精細に炭脈の調査を經たる上にて着手すべきことなるが先日同所を視察せし和田博士の意見に依れば擴張資金は凡そ百萬圓の豫定にして今日の鑛業所を現狀の儘にて今三年間繼續する時は將來の大計畫に非常の障害を及ぼす由なれば速に着手するを要することなるも資金の出所は大問題にして前項炭脈の調査を經たる後のことになるべく而して此計畫は曾禰副統監も熱心の贊成者にして其の有望なることは世界屈指の炭鑛たるべく炭脈は三層となり十尺乃至十五尺の平均炭層ある由

●東拓無用長物說　東洋拓殖會社が一滿鐵には及ばざりしと雖も尙三十六倍の株式引受け申込みありし東洋拓殖會社は一回拂込金二百五十萬圓を以て愈事業に着手し其の金融部は五十万圓を農業資金として放出せん爲目下細則の認可申請中なるが僅々五十万圓の小資金が韓國農業開發の上に幾何の效果ありや到底滿足なる融通を爲し能はざるより早くも資金爭奪の醜運動表はれん形勢なるが一面同社の內部には創立當時より勢力爭ひの絕ゆる事なく事業開展よりも自家の權力扶殖に汲々たる有樣なるより事務に對する誠意を缺ぎ調査粗漏なりし結果韓國側よりの出資たる土地には實際上多額の價格相違あり玆數年を經過して非常なる地價の騰貴を來すに非ざれば出資價格を滿たす能はず又同國の事情は土地を擔保としての貸出に大なる危險あり而も實地の踏査には非常なる經費を要し事業の經營困難なる世人の想像以上なるに近く又水產業をも開始すべしと云へば事務の複雜なるに隨ひ種々の難件を惹起すべきは必然にして同社の前途容易ならざるものあり由來東拓の計畫は博士松崎藏之助が英國の印度に對する東印度會社の政策に倣ひ之を韓國に應用せんとの迷想より策を小松原文相に呈し文相小松原の無智と桂侯の野心と遂に結んで設立を見るに至りし愚擧なれば到底完全なる成績を擧げ得ざるは最初より識者の認むる所なれば今に迫んで慾じひ活動を爲さんとせば却て失敗の因ならん寧ろ三十萬圓の補給金を得て無爲に日を送る外あらざるべく眞に無用の長物なりと評する者多しと大坂朝日は報せり

●平南農工品陳列所　平安南道觀察道內に開設すべき農工品陳列所は今回の品評會開設の爲め當分その開設を見合せ同會閉會後之を開設する事となりたりと

●品評會と陳列場　平壤に於て今回開催せらるゝ勸業品評會は日韓商品を双互に紹介し共に一般韓人に向つて勸業的思想を喚起せしむる動機ともなるべければ今後適當の場所を選定し日韓合同の商品陳列場を開設せんと一部人士間に唱導せられつゝありと事實とならば同地の爲め尠なからざる利益なるべし

●鎭南浦の道路工事　鎭南浦にては今回各國居留地の支那山下より舊遊廓地に出づる道路と億兩機に通ずる道路とを新たに開鑿する由

●晉州の道路工事　晉州三千浦間の道路工事は日々數百人の人夫を使用し目下着々改修進捗しつゝあるは既報の如くなるが尙二月中旬より慶尙南道船津に汽船入港するに至り同地海岸附近は全部邦人の土地購入する所となり雜貨店料理店旅人宿等を開業する者增加しつゝありと

●窪谷警視出發期　內部警務課長より某縣警察部長に榮轉したる窪谷警視は愈々二十六日午前八時五十分發列車にて一先づ東上すべしと尙警務課長の後任たる中野富山縣警察部長は不日着任すべしと

●市川鑑定官送別會　市川關稅局鑑定官は仁川稅關鑑定官に轉任したるに付二十四日午後六時半より翡翠樓に於て永濱關稅總長以下同局員一同の送別會ありたり

●衞生組合懇親會　本日南山に於て京城衞生組合の春季懇親會ある由

●法務院職員野遊會　法務院職員並に其家族は知巳を招待し今廿五日午前十時より曾小田柿氏邸宅上なる南山公園に於て一大野遊會を催し餘興には福引假裝行列其の他の催ある由定めて盛大なるべし

●出入船舶と乘降者　昨日仁川に入港したる船舶は群山丸、朝明丸、大有丸の三隻にして上陸者は男八十一名女二十二名乘船者は男五十七名女二十六名なりと

●郡守の交迭　四月二十二日付を以て左の如く郡守の任免ありたり

任陰城郡守　堤川郡守　陸源學
任仁同郡守　醴泉郡守　李鉉來
任醴泉郡守　前參書　金龜銓
依願免本官　積城郡守　盧炳稷

●敍任辭令

任稅關技師敍奏任官二等　稅關港務官　木下重松
同　鬼一郎
任稅關技師敍奏任官三等　關稅局鑑定官
任稅關鑑定官敍奏任官三等　市川豊治
任農商工部技師敍奏任官四等　葛蒲治太郎
任財務署財務官敍奏任官四等　財務署主事　安源時太郎
同　曾根侃
同　佐野林太郎
同　草場信治

本日の集會

▲京城日本基督敎會　旭町四丁目の同敎會にては午前九時より日曜學校同十時半より橋本金太郎氏の「愛の進化」午後八時より山口照平氏の「春の啓示」と題する說敎あり

▲京城基督敎會　日の出町の同敎會にては午前九時より日曜學校同十時より[illegible]の「パトモスの背景」午後八時より同牧師の第四回聖書講演會あり

▲メソヂスト敎會　旭町二丁目の同敎會にては午前九時より日曜學校終つて午前と夜の兩回木原牧師の說敎あり

公人私人

▲永井金次郎(富山縣事務官)　二十三日水產業視察の爲め馬山に向ふ
▲高椋榮吉(同縣技師)　同上
▲押田喜訓(同縣漁業組合理事)　同上
▲川口武三(商業學士)　來京中の處二十三日平壤へ向へり
▲石原庫之助(漢湖農工銀行忠州出張所主任)　二十三日入京山本旅館
▲恒吉少將(第十二旅團長)　同日入京天眞樓
▲中牟田大尉(恒吉少將隨行員)　同上

近事片々

▲大韓●　協會は全國民大會に國是を決し伊藤統監に感謝狀を贈る計畫なりとは事實乎
▲而も●　其目的が伊藤統監の留任を請ひ威壓政策を排除するにありとは隨分變挺古也
▲伊藤●　統監の優柔主義は彼等一輩の歡迎する所なるが借も其指金は何處より來る乎
▲漢城●　政界の事情に通ずるものならば彼一輩を操縱する謀主は推測するに難からず
▲大韓●　協會と一進會とは其位置を轉倒せり一は現閣を離れ一は現閣に接近し來れり
▲一進●　會と云ひ大韓協會と云ひ何れも御都合主義其離合は彼一輩が利害の打算のみ
▲韓國●　人全體を通じて親日黨なるものなし政權に近寄らんとすれば每時も親日黨也
▲亦た●　威嚇政略を取るときには排日黨也なる故に彼等には高手的政略は最も肝要也
▲歷す●　れば服し懐撫すれば反抗の態度を現はす數百年來の歷史に徵して瞭々如火也
▲伊藤●　統監の留任を乞ひて威壓政策を排せん抔とは隨分虫の好き計畫亦幼稚の考也
▲東拓●　會社は無用の長物也と祖國新聞紙は報ず果して無用の長物なる乎借も心苦し
▲元來●　東拓會社は松崎博士の考案にて之を小松原が桂侯に說じて目論見たる者也と
▲要す●　るに小松原の迂濶と桂侯の野心とに成立したるもの當時より見込なき者也と
▲現狀●　の儘では前途の發展などは思ひも寄らず先づ政府の補給利子にて維持する耳
▲以上●　の見解が果して正當なりとすれば東拓會社も隨分心細きもの也前途畢竟如何
▲大陸●　經營移民集中の機關などゝ大ゲサなる望みを囑されしも斯る事で一向望なし
▲然れ●　ども其任務を遂行するさせざるは當事者の手腕にあり果して其手腕ある乎
▲若し●　夫れ現在の當事者にして玆に顧る所あらば思ひ切て英斷の所置を取るが必要
▲小池●　奉天領事居留邦人の風紀取締を勵行すべしと云ふ風紀勵行は最も努むべき事
▲京城●　居留邦人にも以て適用すべき事ぞかし殊に官人に向て取締る必要あるべし
▲統監●　府は邦人の風紀を取締るべき資格ありやとは例の京童の惡口也と雖亦理あり
▲日糖●　事件の檢擧は益々進み次の手は更に進步黨に及ぶ尙前途幾多の拘引者あらん
▲[illegible]●　[illegible]では乘車するに保險を付するの必要ある也

●校長の辭職と後任　仁川商業學校長松本護三郎氏は辭職したるを以て仁川民團にては其の後任者として東京高等商業出身の佐藤正胤氏を招聘することに決したるが同氏は昨日仁川に着したりと

●金融組合の金融　は其の組合員に對する貸出額は目下九千圓以上に達せる由なるが近來組合員の貸金返濟方稍々巧妙となり隨つて返金も迅速にして之を昨年に比すれば一般の上に於て漸次

破壞の廉により憲兵に逮捕され數日前大邱警察署に押送せられたり亂暴な奴もあるものかな



寶の灰（三）　某生記
（第一銀行券の燒却）

私は何か知ら恥かしい氣がしたので慌てゝ代物を机の下に隱くすと、澁澤さんは莞爾して『什うしたのだ』と聞く。

『はい』と、返事を爲た積りであるが、澁澤さんには聽ゑたか何うだか、私の精神は朦朧となつた。『君も、近頃は什うやら金の難有味が判つて來たやうだ、是れを遣ろふ』と云ひながら、ツと、ポケットの中から束にした**銀行券**を取り出して机の上に置かれた、かと思ふと何時の間にか澁澤さんの影は消ゑて了うて、机の上の**十萬圓**ばかりの銀行券は一枚々々に羽が生ゑて何處ともなく飛んで行く、それ逃がしては大變だと部屋の入口の扉をピシヤリと閉めると、不思議々々々、今の今まで銀行券だと思つてゐた奴が見る〳〵うちに澤山の人の顏と變ヒて、中には男もあれば女もあり老もあれば若きもあるが、何づれも齒を食ひしばつた恐ろしい顏付で、さも怨めしさうに睨んで居る。私は恐ろしさに胸が震るへて宿の人を呼ばうとしても、舌が動かぬ、うして怪しくも身は痺ねて自由にならぬ心持がする、兎や角と悶ねて居るうちに此等の人の顏は漸次と殺氣を帶びて來て『此の變節漢』と云ふやうに各々炎の舌を延べて、今や私を呑もうとする……刹那。

呀、と思ふと、夢の中で私は始めて現在に醒めたのであつた。

あゝ厭な夢を見たものだ、私は、もう寢付かれぬ、暗い中で重い空氣に厭し付けられては、何だか息が詰るやうだ、火を點けやう〳〵……それにしても何うして私はあんな夢を見たのであろふ思ふと、何だか自分の胸に隱くしてあつたものが、夢に依つて**曝露**でもされたやうだが、さて其の夢と此の世とは甚麼關係があるのであろふ、抑も、

夢が此世の影であろふか、

此世が夢の影であろふか、

私は又た新らしい煩悶が湧いた

夜は未た明けぬ。

待ち遠くてならぬ、早く夜が明くれば可い、明けたら第一番に社長を訪ふて、**寶**の**灰**を返して仕舞はう、それが可い〳〵

自分の運命は何程焦つて見た處で寶の灰でさへ抱くべく作られてゐないのだもの、況んや眞の寶をやだ、喝。（終り）

花柳巷談　似合の花較べ（十一）　伊豫之守

▲やん茶、笑太郎、秀子　翠樓の三副對として評判高く何れも年は二八か二九からぬ蕾の花に候、やん茶裙は三人中尤も愛嬌に富み居るも顏の造作は餘り立派な方にあらず、されど色の白きが是等の缺點を補ふに足る者と存候此妓の父親は當併優にして關西の田舍では比類なき腕前なりしとか其故本人も少さき時より小役として舞臺を努め居りし事ありと云へば自然藝の嗜み深く所作事は頗る得意の由に候、さるにても去年の何頃やら此蕾の枝を手折りし、そんじよそこらの三本線殿こそうらめし、笑●●太郎裙は文の助の實妹にして顏も見紛ふばかり酷似し居り候されば元より美人の中間入は出來ざる方なるも性質は文之助とは大に違ひ至つて温順なしく優さしき質に候此妓はまだ色氣とてもなく唯藝道一遍に熱中し三味線は芳村伊三郎に付きて稽古し居れるが恐るべき天才を有し進境最も著しく候、●●●秀子裙は三人中での別嬪なるも割合マセた方で可愛氣に乏しく候併し其道の術には達し居る樣子に候、●三裙共昨年來長唄に熱中し居れるが歌は秀裙優れし代り●茶裙は笛に達し笑裙は三味線を以て優れ何れ劣らぬ花菖蒲とも可申候、序に三裙に申し候が諸裙は藝を學んで器用にこそあれまだ〳〵上達すとには前途遼遠に御座候得ば、ゆめ怠る事なく益々熱心に御稽古あらんことを進め候……次はダーレ……

●五重の塔を破壞す
▲基督教徒の亂暴沙汰

慶尙南道淸州郡加彌山海印寺と云へば開山千餘年を經たる由緒ある古刹にして今尙寺僧多く住み郡民の信仰甚だ厚く惡疫流行の際は此寺にて祈禱すれば病魔退散し若し干魃に遭へば雨を祈るなど迷信深き韓民は此寺の本尊より外には世に信仰すべき神も佛もなきものと一念に尊崇し居るを以て此地方にては如何に杖を以て說くも耶蘇教の宗法に耳を傾けるものなき有樣なるより近鄕の**耶蘇教徒**の輩は之れを以て忌々しき事に思ひ何がなして海印寺に一矢を酬ひんと不正らぬ考へを起し樸仁化、曾京九權京化の三人は申合せて海印寺附屬の五重の塔破壞を企て村民を煽動して當らしめんとしたるも誰有つて加擔するものなきより果ては鉛治職工を雇ひ來たりて終に塔の一部分を破壞したるが意外にも塔の中より數多の**古金銀**を發見し其儘**横領**し自宅へ持歸りたるも寺僧の嚴しき責に古金銀は除儀なく還付したるも亂暴極まる建物なかれ

●壯優を慕ふ三十女
▲家には十二才の子あり

廣島縣安藝郡矢野村田丸マツ（三十）と云へるは同地大和卯吉なる者に嫁ぎて一子さへ擧げ當年十二才なるがマツは性來の我儘者にて夫の意に從はず一家常に風波の絶ゆる事なく遂に同家を離縁して里方に歸りたるも子迄爲したる間なりとて從弟の某が仲裁にて覆水一度び盆に歸り後ち一家を擧げて仁川に來り濱町二丁目に居住せし處元來多情なるマツは何時しか郡秀雄と云へる壯優と喰付き合い本月三月中姦夫姦婦手を取りて當地に逃れ來り秀雄は其親戚なる當地大和町料理店梅の屋の周旋にて京城座に目下の梅花美團を組織し秀雄は舞臺にマツは衣裳方として稼ぎ居るをマツの實弟田丸新一が探知し京城座に至りて歸宅を促せしも更に應ずる氣色なきにぞ止むなく南部署に說諭方を願出でしかば桐原署長は早速本人を呼出して說諭を試みしに中々首肯せず色々抗辨するのみか果ては大聲を發し狂容痴態を演ずるにぞ署長は手を替へ情夫秀雄を呼出して懇々說諭を加へ一先づ元の鞘に納まる事となりたりとはテモ厄介の尼ツチヨかな

●法務院の公判　明廿六日の公判は民事は（午前十時）貸掛代金請求事件上訴人桐木藤吉被上訴人中村忠八にして刑事は（午前十時）山中好雄の窃盜事件なり

●天然痘新患者　仁川花町一丁目林田かね（三十五）は一昨日天然痘に罹り正規の如く避病院に收容せらる

●新町だより　新町遊廓に評判高き第一樓は今回橫濱より四名の新妓を輸入し昨日手續を終へズラリと張店の列に加へしが其面々を擧ぐれば神奈川縣足柄下郡大窪村風祭四百二十二番地武井たみ（二十）は源氏名を吾妻と同縣同郡土肥村門川六十七番地長島てい（二十）は吉野と橫濱市高島町一丁目一番地田村かつ（二十）は白縫と同市三吉町四丁目二番地原みつ（二十）は九重と名乘れるが何れも別嬪揃ひなりと▲一昨日同遊廓檢梅の結果入院の浮目を見たるは京城樓の花子第一樓支店の紅梅府山樓の初音の三名にして病氣の爲め通院せるは第一樓の吉野大桝屋の千歲に千太月下樓の文之助に富勇又休業治療を爲し居るは第一樓の園枝大桝の千代鶴松榮樓の妻吉山遊の房子等なり▲一昨夜同廓へ繰込みたる阿呆鳥の總數は百二十五名にして此費消高七百十二圓二十五錢其中第一樓支店の二十五人百十九圓九十錢が最高なりしと（鄕雀）

●料理屋のボヤ　仁川支那町二丁目靜亭土方文二郎方にて一昨日午後七時頃二階客室に點火しありたるランプに火が入り爆發して疊に落ちパッと燃へ上り疊二枚を燒き將に大事に至らんとせしを幸に宵の口なりしかば火事と聞くより附近の者直に集り來り漸やくに消し止めたり

●猫島の猫匿れ　仁川猫島の猫島樓抱酌婦田中よし（二十）と云ふは去る廿一日無斷にて家出し新町二丁目石工長岡光太郎方同居山永某を便り潛伏し居たるを樓主に發見せられ警官に訴へて連れ歸る

●醉漢車夫を撲る　當地本町七丁目無職市川喜作（五十）は昨日午前一時頃何處で飲んだかグズ〳〵に醉つて廻らぬ舌で怒鳴りつゝ折柄來合せし韓人車夫吳永先に對し乘車を迫りしもヘソレケにて言葉さへ通ぜざるにぞ喜作は嚢腹を立て振り拳を振り廻し吳の橫面三つ四つ撲りたる騷ぎに警官出張し南部署に引致す

●敷嶋遊廓の檢梅　仁川敷島遊廓の乙種藝妓の檢梅は一昨日午后勵行せられたるが受檢者八十九名の中洗滌を要するものは高砂樓鈴子、二見吾妻樓の小福の三名にして此の内入院中の楢進樓秀助病氣全治して退院したり

●種牛の發見　韓國中央農會に到着したる種牛の内シーメンタール第二フロリヤ號は目下南大門外の畜産會社に於て飼養中なるが第三　前牡牛を產みたりと

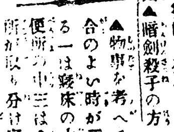
演藝界

▲歌舞伎座　本日の替りは「壯夫の犯罪」にして配役左の如し　憲兵深谷勝哉（松村）陸軍騎兵曹長繁木豐之助（小柳）馬丁貞吉（大山）仲居れしま（藤原）茶亭八兵衞（東鄕）淸水猛（阿部）步兵軍曹中山安三郎（篠田）渡し守彌作（秋岡）車夫太兵衞（高山）代議士野々村玄八（中村）藝妓染菜（小堀）憲兵曹長江口新二郎（田宮）

▲永樂亭　の源氏節も非常の好人氣なるが今晩の讀物は左の如し　鈴木主水（白糸部屋の段）（美根子）日高川（淸姬堤の段）（美根鶴）お半長右衞門（內の段）（美根鈴）小栗判官（續き二席）（美根松）新內梅の由兵衞（長吉殺）（若花）白井權八（吉原の段）（美根由）

▲天運日々判斷▼

▲四月二十五日（陰曆三月六日きのと卯）九星一白▲水專日といふ垣を結ふに吉▲納音大溪水▲喜神西北の間▲貴神正北の方▲丑寅卯巳午未申戌亥の年の人は大吉、子辰酉の年の人は凶、癸丑、癸巳、癸酉の年の人は災煞日にして大凶▲暗劍殺子の方



◀平民文庫▶

▲物事を考へるに都合のよい時が三つある一は寢床の中二は便所の中三は食事中所が取り分け寢床の裡では情だとか又は愛だとかの問題を考へるのに最も都合がよいと思ふ（獨身者）▲獨身者が寢床の裡で情だの愛だのと云ふことを考へるのは甚だ危險である都合のよいことゝ必ずしも善いことでは有りませんからね

●（小僧老爺）▲道で若い女の人に逢ふと鬱陶しい人とワザ〳〵人の顏を見る人があるトッも好きでない（ハイカラ）▲九州方言のスキなのを紹介しませうアヲモチ（長崎にて物の周圍の事）イキリマッチヨル（豐前地方にて威張る事）腹がキッセク（鹿兒島で齒痒い事）ヲバさん（佐賀で兄さんの事）（苦勞人）▲高等小僧君健在なりや（御何生）▲れ尋ねに與り恐縮致し候高等小僧敢する所あり小僧禪寺を建立致し大法宣流に從事致居候此の頽齡を以てして尙ほ且つ席暖まるに暇なき所以のものは前世の罪業淺からざるが故と恐懼措く所を識らず日夜鈍を砥して衆生教化に罪業の消滅せんことを祈願致居り大日本皇帝の御稜威と佛祖の加護に依り頑健殆んど豚の如く候御放心被下度候（小僧禪寺老爺）▲十七か十八の僻に生意氣だなア此の小僧奴（給仕）▲私事此の度是非米國へ渡航致し度き考なるが當地より行くことが出來ますか又其手續は如何に候や御承知の方は御知らせ下さい（みね子）▲理事廳にて御承知下さい委細判ると思ひます（其の方）が手落ちが無くて宜しいと思ひますよ（係）▲道路に撒水するは可なり然れども泥濘脛を沒する底は不可也（通行人）▲京城の中等料理屋にだめのやと云ふのがある一体何處だか知つて居て（覆面小冠者）▲雨敬が先日入寂された雲照師に佛者は緣なき衆生は度し難しと云ふが夫れは不可ん緣なき衆生も又渡すべしだとか云つたと京日子の電光石花欄に見へたが此れを以て見ても如何に兩敬なるものゝ無學であるかゞ判る（阿々子）▲樓上の僕君と情夫君との間に葛藤を惹起したれ初君の半風子問題に付き一言せん、彼れは衣服を解きつゝ其の綿屑をチヨイチヨイと取つて居たのである樓上の僕君は夫れを遠くから見て大方然うだらう位ひで半風子を取つて居たと斷定したのである、曲は樓上の僕君にある（確知生）

天氣豫報（自廿四日午後六時至廿五日午後六時）
南の風晴後曇

廿三日　最高温度　六六、四　最低温度　三五、六（華氏）

最新燃料 用燃料 無烟煉炭
●特色 ●用途
火付よく火力耐久價格低廉
瀛鑵、暖爐、竈用に適す
周防德山海軍省煉炭所東隣
谷口無煙煉炭工場
京城特約店
京城南大門通 電話六〇三番
巴商會
韓國一手販賣
京城太平町二丁目

▲無料紹介欄▼

入用部
淸語通譯希望 當初給料望まず 氏名在社(一三一)
一年前二十歲身体强壯高等小學校卒業家內の少き內に於て餘暇簿記授を受くべき家に下女奉公を望む 旭町一の三二九 まちだ(一一三)
被雇 甲種商業學校出身一年志願兵現役終了給料不望個人商店を望む身元確實 姓名在社(一二一)
買賣事業を求む年廿三身体頗强壯軍隊出射擊術に通ず報酬を不望(衣食に差支へなき限り) 氏名在社(一二四)
年廿才玉突ボーイに雇はれたし持點數百二十以上龍山大島町新玉軒にて津田(一二七)
看護婦募集す志望の方は至急申込あれ 明治町惠愛看護婦會
看護婦三名入用 南山町二 松岡醫院
給仕に雇はれたし 氏名在社(一二八)
多少法律事務に心得ある事務員一人雇ひ入れたし希望者は午前九時前御越の事 明治町二の七五岩田辨護士(一一三)
下女入用 年齡不問 給金働き次第 氏名在社(一一三)
弓削竹二郎君に告ぐ長谷川町宗田屋洋服店へ履歷書提出あれ (保)

物件部
賣家 大和町三土地百餘坪の建物あり 宮吏向に適し風景最もよし望の方は御來談あれ 社內 矢島
貸間 旭町一丁目至極便利の場所電話附(又は賄附にても)にて二間貸したし 氏名在社(一一九)
雉子雄日本產尾中斷し從來使用中の者盜難にかゝれり心當り御報の者へは謝禮 龍山鐵道官舍八十八號 丸山(一三一)

廣告

●賣家●
龍山旭橋通り
一、瓦二階及平屋 取まぜ三十三坪
間數十四造作付 外に空地あり
但旅館用道具共一切御相談に應ず
右賣却す望の方は御來談被下度候
龍山 丸万旅館

電話開通 一一一番

茶及茶器商
京城本町四丁目
靑々園茶舖
靑々園
風味趣味實質の三者を兼備す 正銘宇治茶京都の茶器 故に尤も進物用に適當なり

電話開通 千百二十七番
廿錢均一にして毎夜無休 夕方より與へ求むるには京城座に限る見るは道樂試に御覽なさい
午後六時迄に御越の御方に限り十五錢雨天は半額
京城座

各家御用 新疊及表替調達所 壽町 廿中彦五郎 電話六七〇番

明治廿年七月創立●京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九
資本金一千萬圓●事務所 東京本町二の三 電話一〇六〇番
東京海上運送保險株式會社

開店五週年に付大賣出し
謹啓陳者今般陽春の候各位益々御清榮奉大賀候降て弊店儀開店以來茲に五ヶ年に相當し其の間大方諸賢の御愛顧により日に月に繁榮に赴き候段難有奉謝候就ては平素の御贔顧に酬へんが爲め
三月廿五日より四月廿四日迄滿一ヶ月間二割引の減價を以て販賣仕候間何卒多少に不拘御用命仰付下され度偏に奉希上候



美術書畫 襖、壁、天井張
京城壽町一丁目
桂 萬吉

●廢物利用●
一金口莨空箱買入れ申候 但本入に限る
上等金口トルコ莨發賣所
京城本町四丁目
パ子リス商會

龍山 萬長旅館 東山の手柳町 電話四〇〇番

東京市日本橋區青物町
鈴木製靴店
電話本局千七百七十三番

一弊店は日本一製靴業の元祖にて數十年來の經驗に依り其の品質一切販賣せず
一堅牢持久は世の知る所外に類なし
一價格は品にあり他に比に非ず最も品質佳良なり
一深穿上げ深ゴム靴は價金五圓其内外及革の種類、靴形お好み次第の定價表に足形寸法等は御申越次第進呈仕候
右外今回發賣のボープス革(防水)價金四圓より金五圓は防水防寒如何なる强雨に遭ふも決して水を浸さず耐久比類なし



▲淸潔の下宿▼
客室の淸潔さ調理の美味さ御扱の懇切さを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目一番戶橫小路(元花屋跡)
▲懇切の下宿▼
かめ屋

登記漢城府手續諸願屆代書 民役所前 京城本町一丁目
土地鑛山測量
集金取立代辨
土地家屋賣買其他金錢貸借諸般ノ仲介
岡田事務所
電話七〇五番

諸傘並に提灯類
印入
和洋蠟燭あり
京城明治町一丁目
大島商店

會席御料理

本町八丁目
富士見樓

焦心單志多年爲斯道鑽研於微義奧旨恍然似有得者距離推斷噉啖孔洋辭命洞觀案面輕靈也
京城本町五丁目
易斷館 相談授 通信判斷一件一圓特別二圓
三一館

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金參百萬圓
積立及繰越金八拾萬圓
京城南大門通
株式會社十八銀行京城支店(電話四二〇)
本店 長崎市築町
支店出張所 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羣山、鎭南浦、大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐
韓國其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候(利息日步壹錢四厘)
長崎貯蓄銀行代理店(十八銀行京城支店)

大 每 京
特約販賣自製
漬物 味噌 醤油 製造元
京城本町五丁目
大上商店
和洋酒、◎精酎、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛各種特約販賣
御用向に依り商品切手調進仕候
(電話二二五一番)

齒科治療
女子見習生募集委細面談
本町六丁目
ドクトル 中村安子
(銀そば橫町)

地方よりの注文は御一報次第代金引替にて郵送致し若し御足に合さる節は何時にても御取替申すべく候



電話開通 九百十九番
キツト深ゴム 八圓
ボークス深ゴム一枚皮 七圓五十錢
半裁一枚皮 ボークス深ゴム 五圓五十錢
京城本町一丁目 富田製靴本店 電話九百十九番
同 本町六丁目 同第一支店
同 南大門外 同第二支店

營業科目
活版活字鑄造 石版印刷 木版彫刻 コロタイプ版 寫眞版 銅版 製本 裝釘
今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ營業繼續仕候間倍舊ノ御愛顧之程奉願上候也
日韓印刷株式會社
本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

株式會社 第一銀行韓國總支店
電話番號 長第一二一番 國庫部、發行部、營業課、當直用 第三三一番 國庫部、發行部、營業課用 第六二二番 支配人、調査部、文書課用 第三三二番 用度係、分析所用 第三三二番 臨時建築部用
本店 東京市日本橋區兜町
內地支店 大阪、兵庫、京都、伏見、橫濱、名古屋、四日市、下關
出張所 大阪西區、東京新六阪町
韓國支店 仁川、釜山、元山、城津、鎭南浦、木浦、群山、平壤
出張所 大邱、開城、咸興、馬山、義州
淸國出張所 安東縣
右の外內外各地重要なる場所には爲替取引先あり營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

神田組

○建築業 龍山元町四丁目 中川卯之助 電話六九一
○多年の經驗にて建築の完全を期し料金は便宜御相談可申候也

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬
營業所 京城 町(電話七三番)
本店 同本町三丁目(電話四〇番)
伊藤組

★株式會社百三十銀行韓國總支店
京城本町二丁目十五番戶
電話五十八番
資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
爲替取組先
畿內 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戶、平野、住吉、茨木、下市
東海道 東京、橫濱、大磯、甲府、靜岡、名古屋、半田、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪、
東山道 彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森、秋田、能代、七崎、高崎、
北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、高山、伏木、新潟、
山陰道 宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田、
山陽道 龍野、姬路、西大寺、笠岡、高梁、玉島、福山、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、平生、下關、萩、德山、小郡、長府、網干、牛窓、味野、岩見、岡山、
南海道 串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、州本、撫養、德島、善通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之江、宇和島、今治、西條、松山、三津ヶ濱、
西海道 米、直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、綾藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲、
北海道 函館、小樽、札幌、
台灣 臺北、臺南、
淸韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羣州、大邱、群山、安東縣、晉州、尙州、馬山、
銀行一般の業務精々便利取扱申可候

日本郵船株式會社
仁川汽船出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通
郡回漕店
電話三九番

●釜山長崎神戶行 山東丸 五月九日午後三時出帆
●大連、芝罘、牛莊行 高砂丸 四月日正午時出帆
●大連、大沽、牛莊行 山東丸 四月二十七日前五時出帆
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 五月十三日正午出帆
●釜山出帆、元山、淸津、浦鹽行 立神丸 四月二十八日
御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎料ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金三十五錢 一ヶ年前金參圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵税一ヶ月金十錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金十錢 ▲廣告五號活字十九字詰一行金三十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木竹太郎
發行所 京城西署西小門 京城新報社 電話六六二